

第76回奥羽大学歯学会 プログラム・予稿集

日 時：2024年11月9日(土) 8：55～12：30

口演発表 9：00～11：20

特別講演 11：30～12：30

会 場：奥羽大学 附属病院棟 5階 臨床講義室

連絡先：福島県郡山市富田町字三角堂31-1

☎024-932-8931

奥羽大学歯学会

お 願 い

会員の方へ：

- ・受付は会場入り口に設けます。
- ・会場の座席は順番につめてご着席ください。
- ・討議にはマイクをご利用ください。

発表者の方へ：

液晶プロジェクターによる口演

- ・単写のみで、データファイルはMicrosoft社のPower Pointに限ります。
- ・学会のコンピュータはWindowsのみです。
- ・利益相反（COI）の開示：COIの有無に関わらずスライド2枚目でCOIを開示してください。
- ・前日の試写時に、データファイルをUSBフラッシュメモリーで提出してください。
- ・発表当日は学会のコンピュータで実行しますので、特殊なフォントは埋め込んでください。
- ・学会開催前日の午後5時から、試写を行います。データをお持ちになり会場にお集まりください。その際、念のためご自身のPCも一緒にお持ちください。
- ・演者は、口演開始10分前に、次演者席に着いてください。
- ・口演時間は口演8分、討論2分の計10分です。

時間の経過については、ベルで合図いたします。

7分経過（口演終了1分前）；ベル1回

8分経過（口演終了）；ベル2回

10分経過（質疑終了）；ベル3回

- ・口演終了後も座長の交代まで会場内でお待ちください。
- ・発表者は11月11日(月)16時までには、800字程度の事後抄録を、学会担当 前田豊信宛にメール添付して、送信ください。

【問合せ先】学会担当 前田 豊信（口腔機能分子生物学講座）

電話：024-932-8931, 内線3524 e-mail:t-maeda@den.ohu-u.ac.jp

第76回奥羽大学歯学会プログラム

8:55～ 開会の辞

瀬川 洋 会長

一口演発表（学位口演11演題、一般口演1演題）

座長 廣瀬 公治

9:00～9:10

1. 窒素含有ビスフォスフォネートによるマクロファージ様細胞のインターフェロン産生増加とcGAS発現増強

○渡邊 聡¹、玉井利代子^{1,2}、清浦有祐^{1,2}
(奥羽大・大学院・口腔感染症¹、奥羽大・歯・口腔病態解析制御²)
研修コード1103 関連項目 (1) 1104 (2) 0502

9:10～9:20

2. カンジダ血症の新たなモデルマウスとしてのCB17/IcrJcl-Prkdc^{scid}マウス

○神庭優衣¹、玉井利代子^{2,3}、清浦有祐^{2,3}
(奥羽大・歯・成長発育歯¹、奥羽大・大学院・口腔感染症²、
奥羽大・歯・口腔病態解析制御³)
研修コード1103 関連項目 (1) 1104 (2) 1107

9:20～9:30

3. *Candida tropicalis*の免疫不全マウスに対する致死性の発揮と炎症性サイトカイン産生誘導能

○小松憲明¹、玉井利代子^{1,2}、清浦有祐^{1,2}
(奥羽大・大学院・口腔感染症¹、奥羽大・歯・口腔病態解析制御²)
研修コード1103 関連項目 (1) 1104 (2) 1107

9:30～9:40

4. *Candida albicans*の重度免疫不全マウスに対する病原性発揮のメカニズム

○梅村浩二郎¹、玉井利代子^{1,2}、清浦有祐^{1,2}
(奥羽大・大学院・口腔感染症¹、奥羽大・歯・口腔病態解析制御²)
研修コード1103 関連項目 (1) 1104 (2) 1107

9:40～9:50

5. *Candida glabrata*感染に対する高血糖マウスの宿主応答

○三村義三¹、玉井利代子^{1,2}、清浦有祐^{1,2}
(奥羽大・大学院・口腔感染症¹、奥羽大・歯・口腔病態解析制御²)
研修コード1103 関連項目 (1) 1104 (2) 1107

9 : 50 ~ 10 : 00 休 憩

座長 羽 鳥 弘 毅

10 : 00 ~ 10 : 10

6. 下顎前歯部へのインプラント体埋入に関連した下顎骨内部構造の観察

○小口和貴¹、宇佐美品信²、松本知生³、高津匡樹¹
(奥羽大・大学院・口腔機能回復¹、奥羽大・大学院・口腔機能解剖²、
奥羽大・歯・歯科補綴³)

研修コード1101 関連項目 (1) 0401 (2) 0603

10 : 10 ~ 10 : 20

7. 下顎遊離端欠損部に対するインプラント上部構造の設計

—上部構造の設計に関する生体力学的検討—

○下出 毅^{1,2}、佐々木慎一³、山森徹雄⁴、松本知生¹、高津匡樹^{1,3}
(奥羽大・歯・歯科補綴¹、下出歯科医院²、奥羽大・大学院・口腔機能回復³、
奥羽大・歯・病院⁴)

研修コード0603 関連項目 (1) 0601 (2) 0602

10 : 20 ~ 10 : 30

8. サーマルサイクル条件下におけるワンステップセルフエッチングシステムのエッチング前処理時間が接着強さに与える影響

○白土貴之、齋藤龍一、倉品先秀、大木達也、石田喜紀
(奥羽大・歯・生体材料)

研修コード0413 関連項目 (1) 1003 (2) 1109

10 : 30 ~ 10 : 40

9. ナノバブル水の根管洗浄効果

○橋本有加^{1,2}、木村裕一^{1,2}
(奥羽大・大学院・歯内・歯周療法¹、奥羽大・歯・歯科保存²)

研修コード0410 関連項目 (1) 1003 (2) 1101

10 : 40 ~ 10 : 50 休 憩

座長 木 村 裕 一

10 : 50 ~ 11 : 00

10. ラット唾液腺における成長発育に伴うDuox (Dual Oxidase) の発現

○齊藤大輔¹、安部仁晴^{1,2}
(奥羽大・大学院・口腔組織構造生物¹、奥羽大・歯・生体構造²)

研修コード1101 関連項目 (1) 0401 (2) 0301

11：00～11：10

11. A型ボツリヌス毒素製剤およびエタノール局所投与における組織学的解析
ーラット舌筋の形態学的変化ー

○山崎北斗¹、高田 訓²
(奥羽大・大学院・顎口腔外科¹、奥羽大・歯・口腔外科²)
研修コード0799 関連項目 (1) 1101 (2) 0599

11：10～11：20

12. 埋伏智歯抜歯後にみられた膿原性肉芽腫について

○小角理央¹、君 賢司^{2,3}、君 雅水^{2,4}、川原一郎⁵、佐藤穩子⁶、山森徹雄¹
(奥羽大・歯・病院¹、きみ歯科・口腔外科クリニック²、奥羽大・歯・歯科補綴³、
奥羽大・歯・成長発育歯⁴、奥羽大・歯・口腔外科⁵、奥羽大・歯・歯科保存科⁶)
研修コード0502 関連項目 (1) 1102 (2) 0202

11：20～11：30 休憩

— 特別講演 —

座長 長 峯 英 樹

11：30～12：30

「自走可能な学習者を育てる

～リーディングスキルを意識した歯科医学教育の手立て～」

奥羽大学 薬学部 伊藤 頼位 准教授

12：30～ 閉会の辞

安 部 仁 晴 副会長

口演発表抄録（学位口演発表）

9：00～9：10

1. 窒素含有ビスフォスフォネートによるマクロファージ様細胞のインターフェロン産生増加とcGAS 発現増強

○渡邊 聡¹、玉井利代子^{1,2}、清浦有祐^{1,2}

(奥羽大・大学院・口腔感染症¹、奥羽大・歯・口腔病態解析制御²)

アレンドロネート (ALN) は、骨吸収抑制薬として用いられる窒素含有ビスフォスフォネートの1種である。我々は以前、マウスマクロファージ様細胞 J774.1 のリポド A 誘導 IL-1 β 放出が、ALN 前処理によって増加することを報告した。本研究では、ALN が cGAS 発現増強を介して、同細胞のインターフェロン制御因子 5 (IRF-5) 活性化とリポド A が誘導するインターフェロン β 産生の増加を引き起こした。

研修コード1103 関連項目 (1) 1104 (2) 0502

9：10～9：20

2. カンジダ血症の新たなモデルマウスとしてのCB17/IcrJel-Prkdc^{scid}マウス

○神庭優衣¹、玉井利代子^{2,3}、清浦有祐^{2,3}

(奥羽大・歯・成長発育歯¹、奥羽大・大学院・口腔感染症²、奥羽大・歯・口腔病態解析制御³)

カンジダ血症のモデルマウスの開発については、さまざまな試みが行われている。本研究では、T細胞及びB細胞が欠如した免疫不全のCB17/IcrJel-Prkdc^{scid}マウスのカンジダ血症モデルマウスとしての有用性を明らかにするために行った。各種の *Candida* spp. をマウスの腹腔に感染させて、その病原性について致死性を基に比較検討した。その結果、正常マウスに比較してCB17/IcrJel-Prkdc^{scid}マウスでは菌種間の明確な違いが認められ、カンジダ血症のモデルマウスとしての有用性の一端を明らかにすることができた。特に正常マウスに比較して致死性が強く発揮された菌種が認められたことは、易感染性宿主でカンジダ血症の発症率が高いことから考えて、この免疫不全マウスがモデルマウスとして有効なことを示唆している。

研修コード1103 関連項目 (1) 1104 (2) 1107

9 : 20 ~ 9 : 30

3. *Candida tropicalis*の免疫不全マウスに対する致死性の発揮と炎症性サイトカイン産生誘導能

○小松憲明¹、玉井利代子^{1,2}、清浦有祐^{1,2}

(奥羽大・大学院・口腔感染症¹、奥羽大・歯・口腔病態解析制御²)

死亡率が高いとされるカンジダ血症の有力な原因菌の一つに、*Candida tropicalis* (*C. tropicalis*) がある。*C. tropicalis* が原因となるカンジダ血症は好中球減少症患者や悪性腫瘍患者で多く、死亡率も特に高いとされる。*C. tropicalis* によるカンジダ血症の高い死亡率は、感染に伴う宿主の過剰な炎症性サイトカイン産生が深く関係すると考えられる。感染防御機能の低下した宿主では、正常な免疫能を有する宿主と大きく異なるサイトカイン産生が認められると考える。

本研究では、T細胞とB細胞の機能が欠如し、NK細胞の機能も低下している免疫不全のNOD/ShiJic-scidJclマウスに*C. tropicalis*を感染させて、宿主の炎症性サイトカインの産生と菌の病原性発揮との関係を明らかにすることを試みた。

研修コード1103 関連項目 (1) 1104 (2) 1107

9 : 30 ~ 9 : 40

4. *Candida albicans*の重度免疫不全マウスに対する病原性発揮のメカニズム

○梅村浩二郎¹、玉井利代子^{1,2}、清浦有祐^{1,2}

(奥羽大・大学院・口腔感染症¹、奥羽大・歯・口腔病態解析制御²)

カンジダ血症は、院内敗血症として頻度の高い重篤な感染症である。原因菌として最も多いものは*Candida albicans* (*C. albicans*) とされる。したがって、カンジダ血症の起こるメカニズムを解明する際には、まずは*C. albicans*の病原性の発揮がどのようにして起こるのかを明らかにする必要がある。そのため、本研究では免疫不全マウスのNOD/ShiJic-scidJclマウスに*C. albicans*を腹腔投与後、その生死と炎症性サイトカイン産生の関係を明らかにすることを試みた。その結果、特有なサイトカイン産生が免疫不全マウスへの*C. albicans*の感染で認められたので報告する。

研修コード1103 関連項目 (1) 1104 (2) 1107

9 : 40 ~ 9 : 50

5. *Candida glabrata*感染に対する高血糖マウスの宿主応答

○三村義三¹、玉井利代子^{1,2}、清浦有祐^{1,2}

(奥羽大・大学院・口腔感染症¹、奥羽大・歯・口腔病態解析制御²)

カンジダ血症は死亡率も高い重篤なカンジダ症であり、糖尿病はその重要なリスクファクターの一つとされる。糖尿病患者におけるカンジダ血症の原因菌としては、non-*albicans Candida* spp. の中の*Candida glabrata*の頻度が高い。カンジダ血症の発症においては、炎症性サイトカイン産生が重要な要因となると考えられる。そのため、糖尿病モデルマウスに*Candida glabrata*によるカンジダ血症を惹起させて、炎症性サイトカインの産生動態を明らかにした。

研修コード1103 関連項目 (1) 1104 (2) 1107

10:00～10:10

6. 下顎前歯部へのインプラント体埋入に関連した下顎骨内部構造の観察

○小口和貴¹、宇佐美晶信²、松本知生³、高津匡樹¹
(奥羽大・大学院・口腔機能回復¹、奥羽大・大学院・口腔機能解剖²、
奥羽大・歯・歯科補綴³)

オトガイ孔間には、下顎管のアンテリアループや切歯管および舌側皮質骨にみられる舌孔がある。そこで実習体のアンテリアループを剖出し、距離を計測するとともに、CBCT撮影をおこない三次元的観察をおこなった。その結果、アンテリアループの前方への距離は平均3.42mmであった。アンテリアループや切歯管および舌孔から連続する管腔構造はCBCTでは部分的に観察できるものも存在したが、海綿骨内での走行は識別できないものが多かった。

研修コード1101 関連項目 (1) 0401 (2) 0603

10:10～10:20

7. 下顎遊離端欠損部に対するインプラント上部構造の設計

—上部構造の設計に関する生体力学的検討—

○下出 毅^{1,2}、佐々木慎一³、山森徹雄⁴、松本知生¹、高津匡樹^{1,3}
(奥羽大・歯・歯科補綴¹、下出歯科医院²、奥羽大・大学院・口腔機能回復³、
奥羽大・歯・病院⁴)

当講座では、これまで下顎第二小臼歯から第二大臼歯までの3歯欠損症例に対するインプラント治療に関し、インプラントと天然歯の被圧変位性を生体に近似させた三次元有限要素解析を用いて第二小臼歯部をポンティックとした上部構造の問題点を報告した。今回、同欠損症例に対する上部構造における各種の設計について三次元有限要素解析を用いて検討し、興味ある知見が得られたため報告する。

研修コード0603 関連項目 (1) 0601 (2) 0602

10:20～10:30

8. サーマルサイクル条件下におけるワンステップセルフエッチングシステムのエッチング前処理時間が接着強さに与える影響

○白土貴之、齋藤龍一、倉品先秀、大木達也、石田喜紀
(奥羽大・歯・生体材料)

ワンステップセルフエッチングシステムが主流となる中、リン酸前処理がエナメル質において高い接着強さをもたらすことが知られている。しかし、象牙質においては接着強さの低下が指摘されており、これまでの研究ではエナメル質を中心に結果が報告されてきた。加えて、象牙質に対する適切なリン酸濃度や処理時間に関する知見は限られている。本研究では、トータルエッチングに加え、サーマルサイクルを導入し、エナメル質および象牙質の両方に対する最適なリン酸処理条件を明らかにすることを目的とした。

研修コード0413 関連項目 (1) 1003 (2) 1109

10：30～10：40

9. ナノバブル水の根管洗浄効果

○橋本有加^{1,2}、木村裕一^{1,2}

(奥羽大・大学院・歯内・歯周療法¹、奥羽大・歯・歯科保存²)

近年、ナノバブル水を歯科の分野に応用する研究効果が報告されており、根管洗浄液として使用した論文もあるが効果に関してまだ十分に検討されていない。

今回、我々はナノバブル水やナノバブル水に界面活性剤を添加した洗浄液で根管内のデブリやスミヤ層の除去効果を比較検討した。その結果、今回の方法では対照となるEDTA製剤と比較してナノバブル水での除去効果はあまり認められなかった。

研修コード0410 関連項目(1)1003(2)1101

10：50～11：00

10. ラット唾液腺における成長発育に伴うDuox (Dual Oxidase) の発現

○齊藤大輔¹、安部仁晴^{1,2}

(奥羽大・大学院・口腔組織構造生物¹、奥羽大・歯・生体構造²)

生命活動によって発生する活性酸素は、酸化作用によりDNAやタンパク質を破壊し、細胞や組織の傷害を引き起こす。一方で、生理学的な役割も担っていることが知られてきた。Duox (Dual Oxidase) は、活性酸素を産生する酵素であり、甲状腺では甲状腺ホルモン産生過程におけるヨード化に重要な役割を担っていることが知られている。

本研究では、ラットの成長発育に伴う唾液腺におけるDuoxの発現状況について免疫組織学的に観察・比較検討を行ったので報告する。

研修コード1101 関連項目(1)0401(2)0301

11：00～11：10

11. A型ボツリヌス毒素製剤およびエタノール局所投与における組織学的解析 —ラット舌筋の形態学的変化—

○山崎北斗¹、高田 訓²

(奥羽大・大学院・顎口腔外科¹、奥羽大・歯・口腔外科²)

A型ボツリヌス毒素やエタノールは、顎口腔ジストニアに対する治療の有効性が示されている。今回われわれは、ラット舌における薬剤適用による筋組織の形態評価を目的として研究を行った。エタノール群では注入後から筋組織の壊死と慢性炎症細胞の浸潤が見られ一部の筋組織が肉芽組織へ置換されていった。しかし、A型ボツリヌス毒素製剤は炎症反応を惹起せずに筋組織を萎縮させる作用を持つことが組織学的に明らかとなった。また、舌溝が深くなる特徴的な所見を認めた。

研修コード0799 関連項目(1)1101(2)0599

口 演 発 表 抄 録 (一 般 口 演 発 表)

11 : 10 ~ 11 : 20

12. 埋伏智歯抜歯後にみられた膿原性肉芽腫について

○小角理央¹、君 賢司^{2,3}、君 雅水^{2,4}、川原一郎⁵、佐藤穩子⁶、山森徹雄¹
(奥羽大・歯・病院¹、きみ歯科・口腔外科クリニック²、奥羽大・歯・歯科補綴³、
奥羽大・歯・成長発育歯⁴、奥羽大・歯・口腔外科⁵、奥羽大・歯・歯科保存科⁶)

40歳代女性の下顎右側水平智歯抜歯術後、抜歯窩の周囲粘膜に生じた膿原性肉芽腫の1例を報告する。膿原性肉芽腫は皮膚や粘膜に発生する有茎性の肉芽腫性病変である。病理組織所見では、病変の表層はびらん状で、毛細血管が増生し、軽度な混合性炎症性細胞浸潤を伴う所見が認められた。本疾患は、歯肉、口唇および舌などに好発し、急速に増大し易出血性で潰瘍を伴うことも多いため、悪性腫瘍との鑑別が重要である。

研修コード0502 関連項目 (1) 1102 (2) 0202

第76回特別講演



自走可能な学習者を育てる ～リーディングスキルを意識した歯科医学教育の手立て～

奥羽大学薬学部 准教授

伊藤 頼 位

高等教育において、応用可能な知識を獲得するには学習者が自学自習に努める必要があることは言うまでもありません。自学自習の基盤となるのは、教科書や資料を正確に読める読解力です。読解力の低い学生は、教科書の説明と異なる言い回しをされると教科書と同じことを言われているのか別の事柄を説明されているのかわからない、教わった範囲のことしか理解できず応用力が育たない、細切れの知識の暗記に走る、といった傾向が顕著です。自学自習スキルを身につけ、自走できる学習者を育てるために第一に必要なことは、基礎的読解力の確立です。

本講演では、まず基礎的読解力を数値化するテストであるリーディングスキルテスト（RST）を紹介し、薬学部学生の過去7年分の受検結果をもとに、基礎的読解力が大学の授業成績や国家試験の点数にどう関連するのかをお示しします。その後、学生の読解力向上のために指導者が知っておくべきこととして「生活言語」と「学習言語」の違いについてお話しします。さらに、教育者が実践すべき授業方法の提案も行います。

【略歴】

- 1967年 埼玉県生まれ
- 1991年 埼玉大学教養学部卒業
- 1994年 東京大学大学院人文科学研究科英語英米文学専攻修士課程修了（修士（文学））
- 1998年 東京大学大学院人文社会系研究科欧米系文化研究専攻博士課程単位取得退学
奥羽大学文学部英語英文学科講師
- 2005年 奥羽大学薬学部講師
- 2018年 奥羽大学薬学部准教授
- 現在に至る

専攻：言語学、言語教育学

第77回奥羽大学歯学会予定
日時：2025年6月14日(土)

—歯学会学会委員—

福井和徳（成長発育歯）*、前田豊信（口腔機能分子）*、宇佐美晶信（生体構造）、
島村和宏（成長発育歯）、菊井徹哉（歯科保存）、南 健太郎（口腔衛生）、
御代田 駿（口腔外科）、小林美智代（口腔衛生）、山家尚仁（歯科補綴）、
内山梨夏（歯科補綴）、古山 昭（口腔機能分子）

*学会委員会理事
